

学力調査等の状況

今年度の全国学力調査の正答率は、全国平均との比較では0.4ポイント低く、東京都と比較すると5ポイント低い値である。領域では、A「数と計算」が全国平均よりも2.7ポイント、東京都よりも7.3ポイント低く、C「変化と関係」が全国平均よりも3.1ポイント、東京都よりも10.7ポイント低い。評価の観点では、「思考・判断・表現」が全国平均よりも1.6ポイント、東京都よりも7.3ポイント低くなっていることに注目する必要がある。

見えてきた課題

領域の「数と計算」「変化と関係」を中心に普段の学習や放課後算数教室での指導を改善していく。また「思考・判断・表現」の観点での結果を受けて、数学的な活動の充実を図り、問題を図や式で表したり、友達と協同して学習に取り組み自分の考えを友達の考えと比較したりして、進んで自分の考えを表現することができるように指導を改善していく。

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	一人一台端末が児童にとって学び方を決定する際の一つの選択肢となるよう留意し、協働的な学びや個別最適な学びの充実に向け、効果的に活用する。
見通しをもたせる導入	本時のめあてを提示する際に、ICT機器を活用したり、色チョークを使ったり、言葉を囲ったりするなどの工夫をして課題への意識付けができるようにする。
価値ある対話の共有	それぞれの児童にあった形で、児童が自分の考えを抵抗なく表現できるように表出方法を複数用意する。また、児童の考えを児童間で共有し、考えを深めることができるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話しやすい学習形態や意見交流のもち方を工夫する。 細やかなノート、作文指導を通して、正しい表記や表現が身に付くようにする。 毎週末に日記の課題を出し、書く活動を習慣化する。 辞書の活用と読書活動の充実を図る。図書指導員、読み聞かせボランティアとの連携を図る。 ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 皆の前で話す機会を多く設定する。小集団からスタートする等、発表形態を工夫する。 平仮名、片仮名、漢字は止め、はらい等の字形を意識させ、正確に覚えるための反復練習を行う。 日頃の生活経験をもとに日記を書くことから始め、はじめ・中・終わりの構成で、事柄の順序を考えながら書くことができるようにする。書く表現の工夫についても知る。 文章は声に出して読む練習をし、家庭学習でも音読を行う。また、言葉一つ一つの意味を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表する機会を多く設定し、自分の考えを伝えやすい学習形態の工夫をする。 ノート指導や漢字学習、作文指導を通して、正しい表現方法を身に付けるようにする。 まとまりを意識した文を書くことに慣れるように、日ごろから自分の考えを書き表す活動を取り入れる。 辞書を使える環境を大切にし、分からないことを辞書を使って調べる習慣を付ける。 図書指導員との連携を図り、読書に対して意欲的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文を読む際は、思考ツール等を活用して体系的に内容を捉えることができるようにする。 提案文を書く際は、ICT機器を活用して互いの考えを見合い、より説得力のある書き方について考えられるようにする。 自分の意見をもつこと、伝えることの大切さに価値をもたせる。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業を行い、児童が社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりできるようにする。 気付きをもとに、ペアやグループで意見交換をするようにし、児童が多様な考えを認め合い、学びを深めることができるようにする。 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の様子を知ること、自分と社会のつながりや、多くの人の関わりの上に学校生活や社会生活が成り立っていることを考え、生活を豊かにしようとする思いをもち、表現できるようにする。 店活動や郵便局体験等のグループでの活動を通して、社会の一員としての自分に目を向け、主体的に関わりようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示する資料を精選し、資料から必要なことを読み取れるようにする。 映像や写真資料を効果的に掲示したり、発表時に活用したりするなど、ICT機器を効果的に使う。 単元のまとめでは、学習して分かったことを文章で表したり、説明したりする活動を取り入れる。 学習した用語を適切に使い、説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して資料を提示し、児童の興味関心を高めたり、焦点化したりする。 ICT機器を活用し、調べた内容をペアやグループで共有できるようにする。 児童が学習進度や学習方法を自ら選択しながら取り組む機会を確保し、より探究的に調べ学習ができるようにする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 「習熟度別指導ガイドライン(改訂版)」に沿った習熟度別指導を効果的にを行い、実態に合った教材や授業展開を工夫する。 課題に対して自分の考えをもち、伝え合う学習形態を積極的に取り入れる。 ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 東京ベーシックドリルの診断テストを使って前学年の学習内容の理解度を見取り、放課後や夏季の算数教室で個別に補う。年度末に再度定着度を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が定着していない児童に対して個別指導を行う。(放課後算数教室・夏休み算数教室・放課後個別対応等) 視覚的教材を用いて、具体的な数の操作を体験する機会を多くもつ。ICT機器を用いて資料を提示し、児童にとってより分かりやすい授業を行う。 問題文は図や絵、言葉、式に表などに表すことで、問題の意味を考え、理解できるようにする。 足し算・引き算・掛け算などの計算は、朝学習や家庭学習で繰り返し練習し、定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導を効果的に行うために、単元が始まる前にプレテストを行い、児童が自分の理解力に応じてクラスを選べるようにしたり、教師がより適切な習熟度別のクラスへの参加をアドバイスしたりするなど、児童の実態に合わせた授業を行う。 「キュビナ」を活用して個別最適化学習を進めたり、各単元のまとめ学習として自分の課題に沿った適用問題を解かせたりすることで、学習理解を深める。 放課後算数教室を活用して学習内容が定着していない児童に対して個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別のクラスの選定を効果的に行うために、単元を始める前のプレテストをしっかり行う。コース分けでは「じっくりコース」の人数を少なめに設定する。 数学的な活動を進んで行い、自らの考えを式や図で表現できるようにしていく。 学年の発達段階に応じて、デジタル教科書の使用をすすめる。また「キュビナ」を活用して各単元の学習で自分の課題に沿った適用問題を解かせ、学習理解を深める。 放課後算数教室を充実させる。そのために、一人一人の課題を明確にして学習内容が定着していない児童に対して細やかに個別指導を行い、学習内容の理解を深める。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習のパターン化を図り、予想から考察までの筋道を作って見直しをもてる学習活動を行う。 直接体験や観察活動のための教材教具を整備して技能や解決する力を伸ばす。 自然の事物や現象の変化について、根拠ある予想や仮説を表現できる力を伸ばす。 ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> コマまわしや凧揚げなどの体験を通して、回転力や揚力などに関心をもたせる。 植物栽培や観察、動物との触れ合いを多く設定することで、動植物に関心をもたせたり、その特徴に気付かせたりする。 砂山遊びや、地震や雨などの様子から自然現象に興味をもたせ、日常生活とのつながりを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習のパターンに沿って授業を行い、見直しをもって学習に取り組むことができるようにする。 身の回りがあるものを導入段階で提示することで、単元の学習と生活を結び付け、学習が生活に役立つことを明示する。 ICT機器を活用して、視覚的に分かりやすい資料の提示を行う。 問題解決の力を養うために、安全に配慮しながら、意欲を高めて実験に取り組みせる。 自然の様子を体感することで、四季の変化や生き物の仕組みに関心をもたせ、自然の豊かさや生物を大切にしようとする態度を育成する。 単元の終末では、動画教材を視聴することで、学習内容の再確認をし、観察や実験の理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入やまとめでは、身の回りがあるものを活用し、単元の学習と生活を結び付けるようにする。 実感を伴った学習をするため、実験や実体験の機会を多く設定する。 ICT機器を活用して実験や観察の様子を記録、共有できるようにする。 実験や観察の結果から考察する時間を十分にとり、論理的に考える機会を増やす。
----	--	---	---	---

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会および自然との関わり気付かせる。 年間を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自分の成長を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの植物や昆虫の観察、アサガオや野菜の栽培活動を通して、植物の変化の様子を知ったり、諸感覚を使って様子を感じ取ったりする。また、記録の仕方や視点をび、動植物に対する関心を高める。 身の回りの自然や物を使って遊ぶことで、工夫して遊ぶ力を付け、自然や物に対する関心を高める。 児童の興味が広がるよういろいろな調べ方やまとめ方を知らせ、表現活動を繰り返しながら学びの質を高める。 グループでの活動を取り入れ、人との関わりのなかで学ぶよさを体験させる。 	/	/
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の知識やポイントを明確にしたり、感想を伝え合ったりしながら、曲や演奏のよさに気付けるようにする。 授業の他、音楽集会、連合音楽会、音楽鑑賞教室などの活動を通して、音楽に親しみ楽しむ態度や豊かな心を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴き、真似して歌ったり、歌詞の内容にあった身体表現をしたり、手拍子や打楽器でリズム遊びをしたりすることで、音楽活動に対する自分なりの思いや意図をもたせる。 鍵盤ハーモニカの取組を通して、協働した音楽活動への楽しさを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合った表現について、友達と考えを共有し、思いや意図をもって歌えるようにする。 曲想と音楽の構造の関わりについて考えながら曲を聴いたり、気付いたことについてワークシートに記入したりする。 楽器演奏においては、リコーダーやキーボードのほか、打楽器等を使用し、多様な楽器の奏法や表現の喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて楽曲を分析し、曲の特徴にふさわしい歌い方をするにはどのような表現をしたらよいか、思いや意図をもつ。 曲想を音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて自分の考えや友達を考えを共有し、深め、自分の表現に活かす。 楽器演奏においては、リコーダーや鍵盤楽器、打楽器等を使用し、表現をする喜びを味わわせる。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> 体験を取り入れたり、大型映像装置やChromebookなどICT機器を活用したりする授業を行い、興味・関心をもてるように工夫する。 気付きをもとに、ペアやグループで意見交換をしながら、自分の考えを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入で題材全体の概要や本時の流れ、手順などを示し、活動に見直しをもたせて児童自ら楽しんで活動ができるようにする。 互いの作品を鑑賞する活動を通して、自分の作品の造形的な面白さや楽しさなどを感じ取るとともに、友達の作品のよさから学びを深める。 作業工程や道具の使い方について丁寧に説明をし、基本的な使い方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の見直しをもたせるために、導入において題材全体の流れや概要を伝えるとともに、本時の流れや手順などを示す。 自他の作品のよさや違いについて、自分の意見を発表したり、題材終末にワークシートに記述したりする活動を積極的に取り入れる。 実物投影機や大型テレビを適宜活用し、児童の発表や鑑賞を行う活動や、実演などの際に細部まで視覚的に認識しやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の見直しをもたせるために、導入において題材全体の流れや概要を伝えるとともに、本時の流れや手順などを示す。 題材の導入時には、実物投影機を活用し参考作品を例示するなどして、作品の特徴を児童がじっくり鑑賞することができるようにする。 実演指導に当たっては、実物投影機や大型テレビを積極的に活用し、手元の動きなど細部に渡る部分までを分かりやすく伝える。 Chromebookを活用した共同製作、鑑賞活動を取り入れる。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活との関連を意識させた課題や導入を工夫し、実践的、体験的な活動に取り組みさせることで、日常生活に活かしているという態度を養う。 ICT機器を活用して視覚的に捉えられるような教材を工夫し、見通しをもって活動させる。個別指導の時間やグループで教え合う機会を充実させ、技能の向上と定着を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭、衣食住など、日常生活について基礎的な理解ができ、それに関わる技能を身に付けられるようにする。 ICT機器を活用して児童が見通しをもって主体的に実習に取り組めるようにする。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を踏まえ、体の柔らかさと巧みな動きを高めることに重点を置き、学年間で内容を共有しながら授業の中で補う。 授業形態を整理し、安全かつ安心して運動ができるようにする。 持久走と長縄を学校全体で実施し、十分に実践できる期間を設定し、体力向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容を工夫しながら運動量を確保し、基本的な動き方を身に付けさせる。友達のように気付いたり、自分の考えを他者に伝えたりする場を設定する。 きまりを守ることや安全に活動することを意識させ、健康で安全に留意して運動する態度を養う。 持久走や長縄に楽しく参加できるように声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の習得状況に応じた練習の場を工夫する。 運動量の確保を行い、基礎体力の向上と技能の確実な習得に努める。 持久力向上のための取り組みについて粘り強く取り組めるよう声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動の課題を見付け、自己や仲間の考えたことを伝える力を養う。 きまりを守り、場や用具の安全に留意して自己の能力を高める態度を養う。 ICT機器を活用して、児童が自分の動きを客観的に振り返ることができるようにする。 持久力を高める活動を取り入れ、運動量を確保する。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> 話す、聞く、読む、書くの4技能を習得する活動を十分に入れ、バランスよく4つの技能が身に付くようにする。 デジタル教科書などICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 イングリッシュウィークやイングリッシュフェスタなどの機会を活用し、ネイティブ人材との外国語交流を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて実践できる技能を身に付けさせる。 英語を使う必然性のある場面を設定し、状況に応じて必要な情報や考えを表現できるようにする。 デジタル教科書やICT機器を活用し、発音の習熟を図る。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 他教科と関連付けて、より深められるように効果的な計画を立てる。 プログラミング教育の実施により、論理的思考力を育成する。実践事例を参考に、小学校6年間を通した系統的な計画を立て、創意工夫したプログラミング教育を目指し各教科等で授業実践を行う。 各学年の活動内容を考慮し、ゲストティーチャーを招聘しキャリア教育を充実させる。 		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や生活経験と結び付けながら、様々な事象に対して見方や考え方が豊かになるようにする。そのために、事前学習から体験、振り返りまでを一つのサイクルとし、内容の充実を目指す。 物事に対して理論的に考えられるようにプログラミング教育の充実を図る。トライアンドエラーを大切に、児童が考える時間を十分に確保する。 これまでの農園活動を基にした新たな栽培活動を充実させ、食物の大きさを体感するとともに、キャリア教育と結び付けながら働くことに興味や関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画を計画的に実施し、体験的な活動を軸に学びを進める。 Chromebookを使い、主体的な学びや協働的な学びの機会を積み重ねる。 キャリアパスポートを活用し、学びを系統的に記録できるようにする。 ゲストティーチャーによる出前授業を計画的に実施し、将来働く上で基盤となる意欲や姿勢を育む。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 「考える・議論する道徳」を目指し、ねらいとする道徳的価値について児童が自分との関わりとして捉え、自己理解を深めているようにする。 各学年の価値項目に対する道徳的判断力、および道徳的实践力を教育活動全体を通して育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考え・話し合う」道徳を目指して、より多くの意見が出せるよう発表形態を工夫する。 教材文を効果的に読み聞かせたり、紙芝居等、場面絵の提示や導入方法を工夫したりして、児童が学習する価値項目を理解しやすくする。 道徳的価値について自分との関わりとして捉えることができるようにし、総合的に道徳の心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の見方や考え方を大切にしながら他者の考えを受容し、認められることを目指す。 それぞれの価値項目がねらうところを的確にとらえ、総合的に道徳心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの視点の関連性・発展性を意識し、児童や学級の実態に応じて適切に指導する。 学年ごとに指導の重点を設定し、教育活動全体を通じて具体的な指導を行う。 発問の内容を精選し、ねらいとする価値項目について児童がより自分事として捉え、議論し、互いの考えを認め合うことができるようにする。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、たてわり班活動、クラブ活動、委員会活動等を通して、学級や学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法や自分の実践目標について、決定する機会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を軸に活動を進める。 ・当番活動、係活動、話し合い活動などの学級活動の取り組みを通して、集団としての解決方法や自分の実現目標について決定する機会を作るとともに、豊かで望ましい人間関係の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの活動において、果たすべき役割を自覚し、自分事として課題に取り組み、よりよい人間関係の構築につながるような計画・指導を行う。 ・学級や学校がよりよくなるための工夫がされるよう、課題を明確にし、児童が取り組みやすいようにする。 ・クラブ活動では、異学年交流のよさを感じ、よりよい学校生活に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動、係活動、話し合い活動などの取り組みを通し、豊かな人間関係の醸成を図る。 ・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を決定する機会を通し、主体性を育む。 ・異年齢の児童同士で協力し、集団活動の計画などを立て、自主的実践的に取り組むことを通して個性の伸長を図る。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携し、効果的で楽しい指導を行う。 ・聞く活動を十分に入れ、自然に英語の音が身に付くようにしたり、ペアやグループでの学習やゲーム形式の活動など、自然な形で発話する機会を増やしたりして、コミュニケーションを楽しもうとする態度を養う。 ・自己紹介ビデオやカード交換などで、海外現地校との外国語交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川大学と連携し、児童が興味関心をもつ学習内容を考え、歌や絵本など楽しみながら活動できる授業を展開する。 ・歌や単語の反復練習、絵本の読み聞かせなど聴覚や視覚を通して、外国語に触れ、すすんで英語を話そうとする態度を養う。 ・1時間の学習の中で、どの活動をするか(Song Time/Activity Time/Story Time等)明確にし、学習内容の流れが分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インプットを大切にし、聞く活動を十分に確保するとともに、ALTの発音をよく聞き、英語独特の発音について理解を深める。 ・ALTとの連携を図り、それぞれの役割を明確にしたうえで授業に臨む。 ・話す活動では、話すことへの必要感を大切にし、児童が話すことに意欲的に取り組めるようにする。 ・アクティビティの充実を図り、英語に慣れ親しませることによって、高学年の教科としての英語学習へスムーズに移行できるようにする。 	